

## 深泥池水生植物群落の保護 について申し入れ行なう

全国集会での決定に基づき、9月25日、京都市文化財保護課に対して上記の申し入れを行ないました。今回の申し入れでは、緊急を要するジュンサイ群落の保護に焦点を絞って、当局と話し合いました。その結果、ルアー釣りは直ちに禁止するということになり、現地に立て札を立てるとともに、教育委員会を通じて地元の小、中学校にその旨を周知させるという確約を得ました。我々としては、今後も様子を監視し続け、問題があれば引き続き働きかけてゆくつもりです。(角野記)

### 資料 《深泥池ジュンサイ群落の保護 についての申し入れ》

深泥池総合学術調査団による調査も一段落し、来年3月完成を目標に報告書の作製が進められております。この報告書の結果を待って、深泥池の保護について抜本的対策が講ぜられるものと聞いております。

しかし、本格的対策が練られることになるであろう来年まで、座視して待つことのできない事態が今、深泥池で生じています。それは、深泥地のシンボルでもあるジュンサイ群落の衰退が、今年に入ってから著しいことです。このまま放っておけばジュンサイは深泥池から絶滅してしまうのではないと思われる程の減りようです。近年、コカナダモ、ジャイアント・サギツリアという帰化植物の繁茂で、ジュンサイは少しずつ生育場所を奪われています。それが、今年になってこうも急に減った原因は次の二つの点にあることが明瞭なのです。

一つは、現在、松ヶ崎浄水場で行なわれている工事に伴って、土砂及び硬水成分(カルシウムなど)を多く含んだ水が流入していることです。ジュンサイは酸性でソフトな水域を好む植物であるため、このような水の流入によってかなりの悪影響を受け、活力のある生活を営めなくなっています。

そして、そのように元気をなくしたジュンサイに追い討ちをかけているのが、今、小中学生の間で流行している、いわゆる“ルアー釣り”です。これによってジュンサイの葉や茎がいためつけられているだけでなく、根

こそぎ引き上げられるものもでています。その結果、現地で観察すればよくわかりますように、釣りの場所から同心円状にジュンサイの生えなくなった場所が広がってきております。小中学生が、貴重な自然を無神経に破壊している現実には、教育的見地からも一考を要する問題であると思われます。同時に、ルアー釣り自体、大変危険を伴うものであるということも指摘しなければなりません。

深泥池の変化は、周辺の環境の変化に伴って引き起こされてきたものであって、その保護対策は遠い将来のこととも考えに入れ、時間をかけて調査・検討されたものでなくてはならないのは言うまでもありません。しかし、ジュンサイの問題に関する限り、年内に対策が取られるか否かに事の成否はかかっているように思われます。

水生植物の絶滅の過程については不明のことが多いのが現実ですが、衰退が目立ち始めてから消滅までは、きわめて急速に進むという事実には多くの研究者が気付いています。

深泥池のジュンサイについて言えば、秋から冬にかけて越冬芽を作ります。十分な養分の貯えをもった越冬芽を多数準備しておくことが、来年もまたジュンサイが群落を形成するための必要条件なのです。そして、そのような越冬芽の形成のためには、水面に広がった多くの葉で盛んな光合成作用が営まれなくてはなりません。ところが、前述しましたようにルアー釣りによって釣り糸の届く範囲の葉はことごとく引きちぎられ、この冬を乗り切ることがきわめて危い状態になっております。

今述べました二つの原因に対する対策は、来年を待つことはできないものであり、また天然記念物の管理団体である市当局にとりましても、即刻取り組める問題であるかと思えます。

- 一、工事現場から土砂、硬水成分を含んだ水が流入することを防ぐこと
- 二、ルアー釣りを禁止すること

以上の二点について、早急に関係方面に働きかけられ、善処されることを強く希望するものです。

水草研究会

(会長 大滝末男)

京都市文化財保護課長殿